



土岐市 教育研究所
TEL 0572-54-1111 (内371)
FAX 0572-55-6310
メールアドレス kyoiku@city.toki.lg.jp
No.556
所長 三宅 裕一
発行 令和3年3月19日
日 山田 恭正 教育長
題 字



郷土の先人に学ぶ

撮影者 駄知小学校
青木 茂 教頭先生

「雑感」

土岐市教育研究所長 三宅 裕一

『例年と違って・・・』

3月5日、中学校の卒業式に参加しました。非常事態宣言は解除されたものの、依然感染拡大防止のために、保護者の人数制限、来賓・在校生なし、時間短縮で行われました。通常とは違った卒業式ではありましたが、そこには教育的な価値が従来通り存在していました。

卒業生の自信にあふれた笑顔は本当に印象的でした。マスクを外した一瞬に、保護者や友達・先生方に見せた笑顔、輝いていました。気持ちいいくらいの「大きな声での返事」「姿勢正しい一つ一つの動き(姿)」は、義務教育のうち大人への準備を十分に身に付けた証でした。小中と一緒に過ごしてきた仲間との別れを実感する場としての卒業式、別れの寂しさを感じ、目頭を熱くしている姿もありました。制限された中で、先生方が精一杯工夫し、子どもたちに軸足を置いた卒業式が、卒業生はもちろんのこと、参加者に感動を与えてくれました。

『失敗したとしても・・・』

一年が終わります。学級経営・授業づくり・生徒指導・・・、先生方は多くの実践を積み上げてこられました。振り返ってみて、うまくいったと思える実践ばかりではなかったと思います。でも、「失敗だと思っていることでも、誰かの役には立っている」と思える自分を大切にしていきたいと

思っています。故野村克也氏(元プロ野球監督)は「失敗と書いてせいちょう(成長)と読む」と言ってみえます。「野村再生工場」といわれ、戦力外通告をされ、チャンスを生かせず自信を失いかけていた選手を見出し、見事に戦力に育てていった人ならではの言葉です。本人が気づかなかった長所や能力に目を向けさせ、それを引き出し、自信に変えていきました。確かに、人は失敗より成功からの方がはるかに多くのことを学びます。しかし、失敗の原因を分析し、次の成功につなげていこうとすれば、きっと素晴らしいものが生まれてくると思います。

『人事異動の時期だからこそ・・・』

この時期は職員の異動、校内組織の編成があります。転出入そして校務分掌の変更等、学校の雰囲気もずいぶん変わってきます。転入職員に対して学校の方針や状況を説明していく機会があります。説明するためには自分自身が十分理解しておく必要がありますから、この時期は一層学校のことを学ぶ時期でもあります。さらには、転入職員にはあらゆるものが新鮮に見えます。新鮮に感じる時こそ客観的に学校が見えます。その時こそ前からの職員へどんどん尋ねることが大切です。年度替わりの時期は、転出入の職員だけでなく、職員全員で今の「学校」を振り返ることのできる絶好のチャンスだと言えます。

今年度は、少し落ち着いて外から学校教育や私自身の教員人生を見つめ、経験や考えを振り返り、整理することができた貴重な1年間だったと思っています。また、何十もの論文や書籍を読み込み、1つ1つの課題に没頭し、多くのことを吸収できました。岐阜大学教職大学院 教職実践開発専攻 学校管理職養成コースで広く深く学校経営等を学ぶ機会を与えていただき、本当に感謝しています。

1 講義で学んだこと

年度当初は、充実したキャンパスライフを送ろうと私の中で夢と希望が大きく膨らんでいました。しかし、コロナの影響で前期はオンライン講義となってしまう、大学の先生や同級生とは画面でしか会うことはなく、孤独と闘いながら黙々と課題に取り組む毎日でした。8月に大学で初対面できたときには、遠くに住む仲間とやっと会えたような喜びを感じました。後期は対面とオンラインが交互に行われました。朝、駐車場から並木道を通り抜けて教育学部棟へ入ったとき、7階の講義室の窓から大学構内や周りの山々が見えたとき、夜、駐車場へ向かう途中で灯りの下でダンスをする学生に会ったり遠くからギター演奏と歌声が聴こえてきたりしたとき、大学生生活の始まりを実感しました。講義で学んだことを3つにまとめました。

①当たり前が当たり前とは限らない

小・中学校籍10名、高校籍2名、特別支援学校籍2名と、教育実践開発コース(20~30歳代)のストレートマスター7名、高校籍2名の計23名がほとんどの講義を一緒に受けていました。ただ、異校種や異年齢の方と議論をする中で、何度も感覚のずれを感じました。文化や経験の違う仲間と共に同じテーマを解決するためには、対話と柔軟性、発想の転換が必要であることを学びました。

②専門性を高める

法令、論文、書籍等による根拠を明確にし、論理的に伝えることを常に求められました。専門的な知識や実践をもつ教授の講義から、多くの刺激を受けました。先生の専門性に対して、子どもたちも同様の刺激を受けているのだと感じました。

③ICTを活用する

大学のオンライン講義では、ZoomとTeamsを使用していました。始めは様々なトラブルもありましたが、慣れれば便利です。withコロナ、afterコロナにおいて、ICTのメリット、デメリットを明確にし、場面に応じて使い分けるとよいと考えました。

2 実習で学んだこと

夏休みには県・市教育委員会にて教育行政実習を行いました。また、10月には白川郷学園、1~2月には東長良中学校にて学校経営実習を行いました。実習で学んだことを3つにまとめました。

①広い視野と多様な視点で物事を捉える

子どもから大人まで幅広い年齢や、学校から家庭、校区、市・県・国全体まで広い範囲を見通し俯瞰できる広い視野をもち、細かく大きく、狭く広く、短く長く、個と全体、縦と横、立場・場面・発達段階の違いといった多様な視点で物事を捉えて職務を行う必要性和大切さを学びました。

②迅速で組織的に動く体制をつくる

教育行政や学校では、立場や考え、願いの違う様々な人との関わりがあるため、より複雑な状況が生まれ、想定外の事柄や繊細で困難な問題が多く起きます。その中で、適正かつ迅速に判断、決定し対応しなければなりません。だからこそ日頃から密に目的や情報の共有を図り、全職員で組織的に動く体制をつくっておくべきだと考えました。

③一人一人の子どもと教職員を守り支え育成する

根幹にあるのは、子どもと教職員が夢や希望をもって安全・安心に過ごし、成長できるように環境整備や支援をすることだと実感しました。互いのよさを認め合える温かい学校でありたいです。

3 開発実践研究で取り組んでいること

講義や実習のほかに、施設分離型における小中一貫教育を整備・推進するための手順や条件を明らかにしたいと考え、市教育委員会や土岐津小・中学校の先生方にもご協力・ご助言いただきながら、開発実践研究に取り組んでいます。来年度は週1日大学に通いながら、市内の先生方に成果を発信していけるように精一杯研究に励みたいと思います。

令和2年度 土岐市教育実践論文入賞者

	賞	学校名	教科・領域	氏名	論文テーマ	東教推
一般の部	優秀賞	駄知小	理科	中島 健志	「事象を科学的に探究することは楽しい」と感じる子 ～理科の見方や考え方を意図的・意識的に活用しながら深い学びを実現していくための指導・援助の工夫～	優秀賞
	優良賞	泉西小	特別支援	後藤 祐輔	安心を感じられる 個に応じた 就学指導 ～学校コンサルテーションを活用した組織的な対応を通して～	入選
	優良賞	濃南中	社会	北川 慎二	自己の学びをいかす社会科学習の創造 ～小中一貫教育における社会科学習の在り方～	入選
新人の部	新人賞	西陵中	英語	島倉 渉	生徒が自信をもって英語でスピーチできるようになるために指導の工夫	入選
	新人賞	泉中	国語	南谷 真奈江	「わかった」「できた」を実感し、国語の授業を楽しむ生徒の育成 ～単元を貫く言語活動の工夫を通して～	新人賞
	新人賞	肥田小	算数/数学	山田 康弘	「数学的な見方・考え方を働かせ、習得した知識及び技能を活用できる子」 が育つ算数授業 ～総合的・発展的に考察する数学的活動に重点を置いた授業改善～	新人賞
	新人賞	肥田中	理科	長谷部 智巳	対話的な授業を通して、学びに向かう力を育む	入選
	入選	濃南小	健康安全	加藤 三保子	自分で自分の命を守る児童の育成 ～教材開発及び小規模校の特性を生かして～	
	入選	土岐津中	英語	梅村 紀子	主体的に対話活動を行う生徒の姿を目指して ～ディクトグロス(4技能統合型授業)の実践を通して～	
	入選	西陵中	家庭/技術・家庭	土本 裕之	相互通信を用いたプログラムの授業づくり	
	入選	肥田小	体育/保健体育	山崎 政則	楽しみながら体力を高める。	

令和2年度 土岐市実践記録入賞者

賞	学校名	氏名	作品(記録名)
教育長賞	泉幼稚園	田中 英治	「食育だより」(毎月発行する食育だよりの実際とその成果等)
教育長賞	駄知小	山田 鏡一 加藤 直子	教科の学習に活用する「駄知ふるさとかるた」
教育長賞	泉幼稚園	林 美樹	「やったあ！」「できたよ！」子供の意欲を支える保育環境
特別賞	泉幼稚園	泉幼稚園「チー ムいずみっこ」	「新しい泉幼稚園生活を目指して～新型コロナ感染予防の取組～」 (園経営全体構想・休園期間の取組・開園後の取組・園長だより等)
特別賞	駄知小	青木 典子	特別支援学級の児童に向けた国語・算数・外国語のワークシート

令和2年度 教育実践論文審査講評

審査員長 泉小学校長 後藤 淳

土岐市の教育方針「『やってみたい』を引き出し、『できた』『わかった』と実感できる授業の実現」をふまえ、日々の教育実践をもとに指導法の成果と課題を提示してくださいました教職員の皆様に感謝申し上げます。コロナ禍にあっても、子どもに「生きる力を育む」という熱い思いを感じ取ることができました。審査員一同、論文に込められている思いを感じながら、一言一句丁寧に審査しました。

今回の教育実践論文について、成果や課題を記します。

1 応募状況

出品総数は、小学校10点、中学校11点、幼稚園より1点の22点でした。内訳は、一般の部の対象が9点、新人の部の対象が13点でした。また教科・領域は、教科14点、各領域8点となっており、様々な角度から今日的な教育課題に切り込んで実践していただいたこととなります。また、プログラミング教育の考え方を導入した実践やICT機器を学びのツールとして活用しその有効性を探った実践等、先取的な取り組みが特徴的でした。

2 実践論文にみられたよさや成果

(1) 子どもに培いたい力を明確にしている

目の前にいる児童生徒の実態を今日的な課題の視点で捉え、どのような力を培う必要があるかを明確に示されている論文が多くありました。願う姿を具体的に描くことが教育実践のスタートであり、実践後の成果と課題が明確になることを感じました。

(2) 実践による変容を捉える方法が明確である

実践による子どもの変容を、アンケートや発言内容、ノートの記述、行動の記録等から有効性を探る論文がありました。発言やノートの表出された言葉を切り取り、見方・考え方の変容を捉えた論文もあり、このことは子どもの捉え方の幅を広げるものになることを感じました。

(3) 成果と課題が具体的で次の教育実践につながるものになっている

手立て一つ一つについて、成果と課題が整理されている実践が多くありました。手立ての何が有効にはたらき、どこに改善の余地があるのかを具体的にすることが、次の実践に向かう土台になります。

3 今後の課題

- ・ 1つの実践での検証では、変容が捉えにくい面がある。より多くの実践から、子どもの変容を捉え、有効性を探るようにしたい。
- ・ 6ページでの論文になったことから、論と実践の配分を一考したい。また、限られた中で言葉や添付する図、写真の吟味が必要である。教育用語を正しく理解し、端的に表現できるとよい。

教育実践論文にまとめることは、教員としての指導力を向上させることに間違いありません。さらに、今年度執筆された論文を互いに学びあい、土岐市の教育がより一層充実していくことを願っています。

令和2年度 土岐市実践記録審査講評

土岐市教育研究所 主任 加藤望

土岐市教育実践記録は、今年度で4年目を迎えました。

実践記録の募集は、土岐市立の幼稚園・小学校・中学校教職員の日々の取組を、実践記録としてまとめることを通して実践的指導力の向上を図ることと、応募のあった実践記録を閲覧していただき市内の先生方の識見を広げ日々の実践に役立てることを目的としています。普段なかなか交流することの少ない自校以外の先生方の実践を知る機会として、新たな気づきと教科や学級経営に対する熱意を感じ取っていただきたいと願っています。

1 応募の状況について

今年度は、「A:通信等」「B:教科プリント、児童生徒ノート等」「C:とき丸活用」「D:ICT活用」とそれ以外の計5部門の募集をしました。感染症拡大防止のため教育活動が制限された今年度ではありましたが、幅広い年齢層の先生方から、個人・団体あわせて9点のご応募をいただきました。

2 実践記録の内容について

今年度の実践記録は、田中英治先生（泉幼稚園）、林美樹先生（泉幼稚園）、また共同実践された山田鏡一先生・加藤直子先生（駄知小）の合わせて4名の皆様が、最高賞である教育長賞を受賞されました。コロナ禍においても、大切にしたい日々の教育活動が積み上げられた成果をまとめ、ご提供いただきました。

田中先生は、定期的な食育だよりの発行を通して、子どもたちの食育や健康に関わる取組をされました。園から家庭へ一方通行になりがちな通信ですが、アンケート形式で保護者の思いを取り入れながら、園と家庭とのつながりを大切にされたご実践でした。

林先生は、新しい生活様式下の園生活において、子どもたちの意欲を支える保育環境について、支援のあり方や工夫した継続的な取組をまとめられました。これまで通りの生活ではありませんでした。園児の「やったあ!」「できたよ!」を引き出すための、工夫や努力が伝わるご実践でした。

山田先生と加藤先生は、地域学習として作成した「駄知ふるさとかるた」を教科の学習に活用された取組をされました。地域との学びを、学校生活の中に取り込んで児童の身近な営みとして位置付けられました。ふるさと教育の具体的なご実践として市内に広めたい取組でした。

特別賞として、休園中や開園後の取組をまとめたれたチームいずみっこ（泉幼稚園）と、特別支援学級の児童に向けた教科ワークシートを応募いただいた青木典子先生（駄知小）が受賞されました。

今年度の実践記録は、奨励賞を受賞された先生方の作品を含め、ご自身の実践として宝になることはもちろんですが、こうした作品をこれから担任に挑戦される先生方や他の園・学校の先生方にも見ていただき、実践に対する願いや、その取組の具体をぜひ共有して欲しいと感じました。

3 今後に向けて

今年度はコロナの対応に追われた1年間でしたが、種々の工夫をして何とか子どもに力を付けようと多数の前向きなご実践をいただきました。教育に対する情熱を持ち続け、挑戦や改善を繰り返して前進される実践記録に、教職員として大切にしたい姿勢を強く感じました。心から感謝申し上げます。来年度も引き続き、幼・小・中、幅広い年齢層の方々からの応募を期待しております。ありがとうございました。

令和2年度 学力向上推進委員会 活動報告

学力向上推進リーダー 松原 敦也

1 令和2年度 学力向上推進委員会の取組

令和2年度 土岐市学力向上推進委員会重点

「やってみたい」を引き出し、「できた」「わかった」と実感できる授業

<令和2年度の取組の重点>

- ① 広がり・深まりのある終末の姿の具体化
⇒何ができれば（わかれば）よいのか
- ② 「何を」「どう」すればよいか明確にわかる課題設定
⇒課題は位置づいているか
⇒終末の姿に向かうものとなっているか

①②に関わる
共通実践

2 令和2年度 共通実践の取組から

① 広がり・深まりのある終末の姿の具体化

私たちは日々の授業において何を指導すべきか常に具体化しておく必要があります。国語の授業で言えば「次の場面は～な心情をおさえればいいかな」と漠然と授業を思い描くのではなく、「次の場面でおさえたい心情は○○だ。そのためには『□□』という表現への着目は全員に行わせるぞ」と明確にイメージしたいです。

泉中の小久保先生は、中1数学「一次方程式」の授業において出口の姿を以下のように描き、本時の授業でおさえたい4つの要素を明らかにしました。

- 1) 速さに関する問題場面から状況を読み取って、求めたい数量とその単位を明らかにし、
- 2) 等しくなる数量の関係を見出して1次方程式を立式し、
- 3) 方程式を解いて解を求め、
- 4) 解の吟味を行ってから解答している。

濃南中の北川先生は中3社会「価格の働きと金融」の授業において出口の姿を「銀行の必要性を『間接金融』『金融政策』の2つの銀行の役割から説明することができる。」と表すとともに、必ず使用する語句「銀行・貨幣・預金・現金・間接金融・経済活動・景気変動・金融政策・金利」を設定し、以下のような子どもの説明例を作成しています。

銀行が必要な理由は2つある。1つ目は、間接金融をになっているからである。つまり、人々がもっている現金の貨幣を預金として集め、家計や企業に貸し出し、経済活動を助けているのである。2つ目は、景気変動に対して金融政策を行っているからである。つまり、日本銀行が公開市場操作を行い、一般の銀行が金利の上げ下げを行い、企業への資金量を調整しているのである。

外せない要素をナンバリングしたり、使用する語句を設定したり、子どもの説明例を作成したりするなど方法は様々ですが、終末の姿を具体化して授業に臨む姿勢を学びたいです。

② 「何を」「どう」すればよいか明確にわかる課題設定

出口の姿が明確になればそこへ向かう課題も明らかになります。3人の先生方が作成した課題を紹介します。

- 駄知中 富井先生 3年保健体育「バレーボール」
「3本返球率を40%以上に上げるために、どんな動き（身体の向き、足の動き）、どんなボールの出し方をするとよいだろうか。」
- 濃南小 伊藤先生 3年算数「小数」
「0.1のいくつ分を使って、小数の計算のしかたを説明しよう。」
- 泉中 塚原先生 1年国語「幻の魚は生きていた」
「序論の問いの答えを見つけて、本論の要旨を100字で書こう。」

課題設定

黒線部分が、何ができたらいいのかを示しています。波線部分はそのための追究の方途・視点です。3人の先生方に共通しているのは、何ができたらいいのかということと、追究の方途・視点が課題の中で具体的に示されているということです。授業の出口の見通しと解決方法の見通しがもてる課題となっています。

③課題提示の言葉や、終末の姿を理解させる手立て

【深めの発問】

「①」「②」の重点に加え、今年度の共通実践で先生方に書いていただいたのが「課題提示の言葉や、終末の姿を理解させる手立て」です。その手立ての中で多かったのは「深めの発問」でした。3人の先生方が行った「深めの発問」を紹介します。

○下石小 山内先生 4年算数「がい数」

「切り上げを使った求め方と四捨五入を使った求め方、この場合はどちらが適切か？」

○泉 中 山口先生 3年国語「故郷」

「変化してしまったのはヤンお婆さんだけだろうか？」

○泉 中 橋本先生 3年社会「地方自治」

「なぜ、JK課やお困りです課などの独自の課が設置されているのだろうか？」

深めの発問

山内先生は、買い物でいくら持っていけばよいかを見積もる授業において、2つの求め方（切り上げ、四捨五入）が出てきたところで「切り上げを使った求め方と四捨五入を使った求め方、この場合はどちらが適切か？」と子どもに投げかけました。子どもたちは2つの方法を比べることで本時のねらいである「目的に合わせて四捨五入、切り上げ、切り捨てを使い分ける必要がある」ことに気付くことができました。

山口先生は、「故郷」の読み取りの場面で「変化してしまったのはヤンお婆さんだけだろうか？」と投げかけ、「ヤンお婆さん」に関わる表現と他の登場人物に関わる表現を結びつけて考えるよう促しました。これにより、変わってしまった故郷の象徴として「ヤンお婆さん」が描かれていることに子どもは気付きます。

橋本先生は、「なぜ、JK課やお困りです課などの独自の課が設置されているのだろうか？」と独自の課が設置された要因を子どもに問うことで、地方の政治が住民の意思を尊重し、住民の願いを実現するための仕組みになっていることに気付かせます。

このように、比べたり、結びつけたり、要因を考えたりすることを促す発問により、子どもは教科の見方・考え方を働かせながら思考を深めていきます。先日の学力向上推進会議の水野課長補佐様の話にあった「教科の本質に根ざした真の理解」につながる手立てです。

【ICTの活用】

GIGAスクール構想に伴うタブレットの導入やコロナ禍の学習、プログラミング教育の開始等に伴い、ICTを活用した手立ても多く見られました。ぜひ参考にしたいです。

○駄知小 山田先生 6年生理科「月の形と太陽」

⇒教科書会社デジタルコンテンツ「月の形の見え方」を使って一斉学習の内容を個々で確認する。

○泉 小 長田先生 5年算数「正多角形と円」

⇒正多角形の性質をもとに、プログラミング（プログル）を使って正多角形をかく。

○泉 中 原先生 1年生数学「平面の図形」

⇒図形の動きをシュミレーションソフト（ipad）で見て、ある1点の動きをイメージする。

ICTの活用

3 学力向上推進委員会の成果

市内小・中学校、各先生方の取組より、多くの実践が集まりました。それを小・中別、教科別に整理し、以下に記した土岐市共有フォルダ内にまとめました。今後の授業実践にぜひご活用ください。

09 学力向上推進委員会⇒R2 終末の明確化実践

子どもを「しとねる」

駄知中学校 校長 丸山 真理子

学生の頃、灰谷健次郎さんや子安美知子さんの講演会を岐阜で開こうと、恩師とともに奔走しました。直接お話をする機会も何度かいただきました。教師になってからは、大村はまさんの本をたくさん読みました。3人の教えと多くの先輩方との出会いがあり、今の私があります。

「泥濘にはまったリヤカーを、一緒に押してやることではなく、そこから抜け出す方法を、一緒に考え、導いてやるのが教員の仕事である。」「教室には、引き締まった気分を作る工夫をしないとイケない。固いのでも怖いのもないが、きりっと引き締まっている、そういう気分をつくりたい。」「教師の役割は、温かくも厳しい目をもち、子どもを一人でも生き抜ける人間に鍛え上げることである。そのためには真摯な研究と優れた指導が必要だ。」

これが、私の軸になっている言葉です。

「研究」をしない教師は先生ではない。まあ、今ではいくらか寛大になって、毎日でなくてもいいか

もしれないと思ったりするが。(略) 子どもというのは「身の程知らずの伸びたい人」のことだと思うからだ。一歩でも前進したくてたまらないのだ。そして、力をつけたくて、希望に燃えている、その魂が子どもなのである。(略) 研究をしていて、勉強の苦しみと喜びをひしひしと、日に日に感じていること、そして伸びたい希望が胸にあふれていること。私はこれこそ教師の資格だと思う。

タイムマネジメントの力が必要な時代ですが、昭和・平成・令和と時代は移り変わっても、子どもをしとねる(大切に・立派に育てて人成る)ことの根幹は変わらないのではないのでしょうか。若い先生方には、少々青臭いですが、子どもが好きな先生でいてほしい。今年の、コロナ世代の子どもたちを育てる中で、子どもたち一人一人には、「ぐらつかない軸」をきちんともたせたいとますます感じています。

掲 示 板

◇令和2年度 岐阜県ふるさと教育表彰

《優秀賞》妻木小学校 駄知小学校 濃南小・中学校

◇令和2年度「ひびきあい活動」表彰校

《ひびきあい賞》駄知小学校附属幼稚園 泉小学校附属幼稚園

土岐津小学校 濃南小学校 濃南中学校 泉中学校

◇第16回 岐阜県道徳教育奨励賞

《優良校》濃南中学校

◇令和2年度「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰

妻木小学校「地域・学校づくり協議会」

◇令和2年度 岐阜県読書感想画コンクール

《最優秀賞》平井 もあ(土岐津小3年) 第32回 読書感想画中央コンクール出品

《優良賞》中武 花穂(土岐津小3年)

おめでとうございます!

